
アーマードコア イレギュラーの軌跡

超高機動型AMIDA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アーマードコア イレギュラーの軌跡

【Nコード】

N1706W

【作者名】

超高機動型AMIDA

【あらすじ】

アーマードコアfAを原作中心で書いくつもりだったけど

原作中心だと面白みが無いと思うので迷いながら書いていきます

初めての長編ですのでだめなところアドバイスを

もらえると思います

シリアスオンリーで行きます

萌えとか恋愛要素はないです

更新が遅くなりそうときは検索からはずすので

よろしく願います

プロローグ（前書き）

8 / 27 次話ほとんど完成したので明日の朝投稿します

ブローグ

国家解体戦争から数十年の未来。

支配者たる企業は、自らが汚染し尽した地上を見限り、航空プラットホーム、クレイドルを建造。

高度7000mの空に、新しい、清浄な生活空間を見出していた。

既に、人類の過半はクレイドルに住まい、地上は、資源基地と、それを巡る戦いの部隊に過ぎなかった。

一方で、国家解体戦争においた企業支配体制を確立した原動力人型兵器アーマードコア「ネクスト」と、搭乗者「リンクス」はその圧倒的な力の、固体依存性に危機感を抱いた企業により企業機構「カロード」管下の傭兵として、地上に残された

今や、企業軍の主戦力は、巨大兵器アームズフォートでありかつて戦場を支配したネクストたちは

薄汚れた地上で延々と続けられる、経済戦争の尖兵と成り果てていた

・・・・そして人類に大きな影響を与えることになる一人のリンク
スが生まれようとしていた

プロローグ（後書き）

今日作者の誕生日です
・・・どうでもいいか

第一話（前書き）

もしもどこかとかぶっていたりしたら言ってください
すぐに書き直します

第一話

あるコロニーに一人の少年がいた
しかしある日人生を大きく変える事件が起きた・・・

あたりは血だらけ。

そんな中一人の少年は逃げていた。

どうやらリリアナという組織が襲撃してきたらしい。

整備の仕方やMT、ノーマルやひろったハイエンド型ノーマルの操縦の仕方を教えてもらった師匠とも言える人もなくなってしまうた。

今少年は物置に隠れている

（なぜ、なぜ俺たちがこんな目にあわなければならない。なぜ俺たちはクレイドルに住ませてくれなかった！なぜこんなに理不尽なんだ・・・）

そう少年は思った。

「食糧庫とノーマルのパーツを探せ！あとは好きにしろ！」

物置の外から聞こえた

そのあとに銃声、叫び声が聞こえる。

少年は耐えられなくなり、外に飛び出した。

走ったとにかく走った

後ろから銃声と悲鳴が聞こえていたがとにかく走って逃げた

ついに走れなくなり息を切らしながら立ち止まった。

逃げていたと思ったら逆にリリアナがきた方向に走ってしまっていたのだ。

「おい！そこで何をしている！」

気付かれた

とっさの判断でリーダーが乗っていたと思われるハイエンド型ノーマルに乗り込み起動する

そしたら騒ぎを聞きつけたリリアナが次々と少年が起動に手間取っている間に

次々と敵ノーマルが起動してきた

少年は起動途中のノーマルをブレードで二度と立てないようにコクピットに直撃させていく

「おい！同士がやられたぞ！」

起動が完了したノーマルが次々と撃ってくる

「だれだ、リーダーのACに乗ってるやつは！」

そう言って撃ってくるノーマルにミサイルを発射

命中。しかし敵弾が右肩が吹き飛ばされる

ミサイルが機体に命中する

（状況は不利ここは逃げるか）

ブースターを最大出力で吹かし、空域を離脱する。

しかしスナイパーライフルを持ったノーマルに脚部の間接という脆い場所を狙撃され
右足がまったく使い物にならなくなる。

姿勢制御をマニュアル操作で行うことにより立て直す。

そのままこの地獄をぬけだす

あのコロニー（地獄）からだいぶ遠くにきた

少年ももう大丈夫だと思いとりあえず
機体を着地した。

そして少年はよっぽど疲れたのかコクピットの中で寝てしまった

第一話（後書き）

主人公まぬけ・・・

まあ、あんな状況だったら仕方が無いけど

第二話 ラインアーク襲撃（前書き）

8 / 3 1 大幅修正というか書き直し
かなり気に入らなかったので

1 0 / 0 8 心情表現が少ないと感じたので修正中

第二話 ラインアーク襲撃

件名：ラインアーク襲撃

依頼者：企業連

ミッションを連絡します。

ラインアークに展開する、守備部隊を排除してください
ご存知の通り、ラインアークはクレイドルに賛成しない反体制勢力
です

我々は、平和的な話し合いを求めています、

彼らは、頑なにこれを拒み、攻撃的な態度を崩しません。

このミッションは、話し合いのための示威行為です。

力をちらつかせた交渉は、我々の本意ではないのですが

この際は仕方ありません

なお、ラインアークの主戦力、ホワイト・グリントは、

離れた場所で作戦行動中です。心配は要りません

失礼ながらこれはあなたの試金石でもあります

確実なミッション遂行を期待しています

「ミッション開始 ラインアークの守備部隊すべて排除する」

「了解、ラインアークの守備部隊を排除する」

「企業のネクストだと！畜生、こんなときに限って」

ミッション開始！

ストレイドは前にいる複数のMTを拡散ミサイルをMTに複数ロックス撃つ。

すべてのMTに直撃し爆発する。

ストレイドはブースターで飛び、右側の橋に着地する。

前方にMTとノーマル部隊を確認

まず邪魔なMTを先にアサルトライフルで排除

ノーマルに拡散ミサイルでロックスオンし、撃つ。

ノーマル一機破壊

オーバーードブーストを起動、体にGがかかる。

ノーマル、ブレードレンジ内に入った！

すかさずオーバーードブーストを切りブレードを振る。

二機目破壊

そしてクイックターンして近くにいるノーマルにアサルトライフルをコアに向かって撃つ。

三機目破壊

これでこの橋のノーマルは全滅。

「くっ、通常兵器では、太刀打ちできん」

「ノーマルはまだなのか！」

左の橋にクイックブーストで飛び移る。

前に出てるノーマルにアサルトライフルで破壊

あと二機

「く、来るなあー!!」

といって一機のノーマルが近距離でミサイルを発射
かまわず弱めのクイックブーストで急接近、斬る
ノーマル沈黙。

「くっ、こうなったら道ずれだ!」
ノーマルが接近、自爆する。

しかしストレイドは無傷だった。プライアルアーマーに防がれたのだ

「全目標の排除を確認ミッション完了だ
よくやったな、ほぼ完璧だ・・・とは言え、あまり調子付くなよ敵
が弱すぎたのだからな」

「了解、帰還する」

(二度目の戦闘・・・だが人を殺したのに何も思わなかった俺はおかしいのだろうか・・・)

人は何のために生き、何のために死ぬのか・・・そして自分は何の
ために戦って何をなそうとしているのか・・・わからない・・・が今
は前に進むしか道は無い・・・)

第二話 ラインアーク襲撃（後書き）

機体はオーギルです

分からない人はオーギルで検索

第三話（前書き）

ああ忙しい

第三話

「そういえばお前、カレードに行かないのか？」

突然聞かれる

そして返事する

「いや、行きません。だって下手に仲良くなって戦場で敵になって出てきたら

撃てるかわかりませんから」

「そうか……。だがカレードからオーダーマッチの誘いが来ているがどうする？」

すこし考えて言った。

「行きます。ネクスト同士の戦闘はこの先おそらく避けられないことですので少しでも慣れておいた方がいいと思いますので」

「よう！名無しの新入り！俺はチャンピオン・チャンプスってんだ。よろしくな！」

大柄な男が言った。

「ああ、こちらこそよろしく頼む。」

両者がネクストのコクピットを模したシュミレーターに乗り込む。
そして、AMSが接続されると同時に目に砂漠がうつる。

相手のネクスト、キルドーザーがオーバード・ブーストで突っ込んでくる

「どつりやあああああ！」

右手でキルドーザーがドーザーで殴ろうとする。
ストレイドは対応できずドーザーで殴られた

キルドーザーが左手のドーザーでもう一度殴ろうとする

「どすこおおおい！」

「・・・！」

しかし次は対応し後ろにクイックブーストで避け、
地面を蹴り空中からライフルと拡散ミサイルで反撃する。

地上にいるキルドーザーが高速ミサイルとグレネードを撃ってきた
ミサイルをライフルで追撃するが、グレネードがストレイドに命中する

「ぐっ・・・！」

オーバード・ブーストで急接近、ブレードを振る！
キルドーザーも両手のドーザーで殴ろうとする

キルドーザーが停止する
どうやら勝利したのはストレイドのようだ

「よかったな！勝てて！」

負けたのに悔しそうにせず元気にチャンピオン・チャンプスがほめた

「ありがとう。こちらこそいい戦いだった」

こうして初めてのオーダーマッチは終了したのだった。

第四話（前書き）

P S Pからの投稿

オーダーマッチの帰り、主人公はなにを思ったのか

第四話

輸送機から外の景色を見る。

砂漠。そう人類はどうなるのかわかっていたにも関わらず

人類は利益を求め、終わりのなき開発、大気汚染、戦争による有害物質の発生、

そしてコジマ粒子。

結果地球の北極はなくなり、それにより海の流れはなくなり、魚介類は死滅。

オゾン層もほとんどなくなり、動植物もすぐに異常をきたし、壊滅した状態にある。

それでも人類は傷ついた地球にかまわずコジマ粒子を振りまきさらに地球を追い込んでいく。

（人類は危機に立たされている。なぜこうなったのか、企業のせいではないか？

企業は利益のためにしか動かない。だから人として動けない。この、人としての本質を忘れたエゴの塊のような物を人類から排除すれば人は・・・）

（ならば、なんとかしても生き残り、俺が人類の重りを断ち切らなければ・・・！）

カレードから帰るときある一人の青年は生きる理由を見つけ、ある決心をしたのであった。

第四話（後書き）

p s pからの投稿が多くなりそうです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1706w/>

アーマードコア イレギュラーの軌跡

2011年11月17日17時41分発行